

特別実験・理論演習の研究室振り分けについて

令和元年7月26日 教室会議 附議

振り分け決定会議を志望学生全員出席のもとに開き、下記の手続きにより研究室配属を決定する。今回の振り分けにおける各研究室の最大受け入れ人数は、教授・准教授2、講師1を原則とする。

A 注意

- (1) 特別実験・理論演習を履修希望する学生は、物理学実験Ⅰおよび物理学実験Ⅱを履修済であること。
- (2) Sセメスターに理論演習を履修した学生は、Aセメスターでは必ず特別実験を履修すること。
- (3) Sセメスター、Aセメスターともに特別実験を選択する場合は、同一の研究室としないこと。
- (4) 物理学科では、年度によりAセメスターに海外派遣留学プログラムが実施されている。事前(Sセメスター)に条件が提示され、応募期間が設けられ選考が行われる。選考の結果、海外派遣が決定した学生に対しては、派遣先での研究内容を勘案してAセメスターの特別実験、理論演習の受け入れ教員が定められる。その場合、各研究室の学生配属可能数とは別に枠を設ける場合がある。
- (5) 原則として欠席は認めない。振り分け会議に欠席した学生の振り分けは教務委員が指定する。
- (6) 大学認定の行事などでやむを得ず欠席する場合は、振り分けの前日までに教務委員と面談を行い希望を伝えておく。

B 振り分け手順

- (1) 教務係が黒板に受け入れ研究室の名前と受け入れ人数を掲示する。次に、各学生が希望する研究室の横に自分の名前を記入する。
- (2) 最大30分程度、自由議論。この間に第一希望研究室を変更することができる。
- (3) 第一希望調査を締め切った段階で、希望者数が受け入れ人数内の研究室は、その分については確定する。
- (4) (3)で希望者数が受け入れ人数を超えた研究室は、研究室毎にくじ引きを行い、受け入れ学生を確定させる。(くじ番号の大きい順に確定させることとする。)
- (5) (4)の手続きが全て終わった後、第一希望の研究室に配属されなかった学生は、あらためて空席のある研究室の横に自分の名前を記入する。必要があれば自由議論の時間を設ける。
- (6) (5)で希望者数が受け入れ人数内の研究室は確定する。希望者数が受け入れ人数を越えた研究室は、研究室毎に第二希望の学生の間でくじ引きを行い、受け入れ学生を確定させる。以下同様に繰り返す。
- (7) 想定外の事態が生じたときは、立会いの教務委員の判断で処理する。

以上